

2022年9月16日
経済部 シニアエコノミスト
片白 恵理子

経済概況・先行き・注目点：足元、回復に向かっている。第2四半期の実質 GDP 成長率は前年同期比 +2.5%と、第1四半期の同+2.2%の伸びを上回った。COVID-19 規制の緩和、景気刺激策、国内外の旅行者数の増加などが寄与した。支出別では、個人消費が同+6.9%と第1四半期の同+3.5%から増大した。また、海外からの観光客の増加などでサービスの輸出が同+54.3% (第1四半期同+32.5%) と大幅に増加した。一方、モノの輸出は同+4.6% (同+10.6%) と減速、総固定資本形成は同▲1.0% (同+0.8%) とマイナスに転じた。**先行きについては**、インフレにより消費・投資意欲が弱まる可能性はあるものの、景気刺激策が続き内需拡大、観光業の回復などが支援材料となり**回復が続くだろう**。2022年の外国人旅行者数の政府目標は1,000万人 (2021年43万人/実績値)。8月末時点までの累計は460万人。COVID-19 拡大以前の2019年の外国人旅行者数は約4,000万人、その支出はGDP比約10%だった。国家経済社会開発委員会 (NESDC) による2022年の実質 GDP 成長率の見通しは+2.7~+3.2%。IMF、世界銀行による同見通しはそれぞれ+2.8% (7月時点)、+2.9% (6月時点)、ADBは+2.9% (7月時点)。**注目は、8月中旬に電気自動車 (EV) の生産・普及支援のための補助金予算が閣議決定され、これにより中国などの外資 EV メーカーの進出が加速するとみられる点だ。**

小売売上高：回復が続いている。6月の小売売上高は前年同月比+12.1%と5月の同+14.8%より伸びが鈍化したが3か月連続で2桁台が続いている。COVID-19の規制緩和を受け消費が加速しており、中でも繊維が同+50.7%、衣料品・履物・皮革製品が同+45.4%と高かった。先行きは、インフレの加速で消費マインドが冷え込む可能性があるものの、観光業が増勢し小売売上高の回復は続くと思われる。

生産：回復している。7月の鉱工業生産指数 (MPI) は前年同月比+6.4%と、6月の同▲0.2%からプラスに転じた。MPIのうち、主要品目である食品 (7月同+7.7%、6月同+1.7%)、車両・トレーラー (7月同+22.1%、6月同+3.2%) などが大幅に伸びた一方、コンピュータ・電子製品が同▲4.49%と6か月連続でマイナスだった。先行きは、雇用情勢の改善と内需の加速で回復が続くだろう。

貿易：輸出の伸びが鈍化している。7月の輸出額は前年同月比+4.3%の236億ドルと、6月の同+11.9%より下回った。最大の貿易相手国である中国への輸出が2割ほど落ち込んだ。特に鉄鋼の輸出は、不動産の低迷で減少した。7月の輸入額は同+23.9%の273億ドル。資源価格の高騰、内需の回復に伴い、輸入は拡大している。7月の貿易収支は37億ドルの赤字になり前月の15億ドルから倍以上増加した。今後、輸出は収穫量が増加したコメなどの農産物の輸出が増加するとみられるが、世界経済の減速の影響を受け伸びが鈍化する一方、輸入はパーツ安が続くことに加え内需が回復に向かい、貿易赤字が続く可能性がある。

物価：上昇ペースが加速している。8月の消費者物価指数 (CPI) は特に食料品価格が高騰しており前年同月比+7.86%と7月 (同+7.61%) を上回り、4か月連続で同+7%を超える高水準が続いている。先行きは、利上げの実施、資源価格の上昇の緩和などで伸びがピークアウトする可能性はあるが、食料品価格の上昇はしばらく続くだろう。2022年通年のCPI見通し (中央銀行) は+5.5~+6.0%。

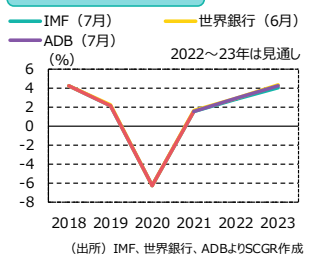
金融政策：利上げを開始。8月に政策金利 (翌日物レポ金利) を25bp引き上げ0.75%とした。利上げは3年8か月ぶり。2020年5月以降過去最低水準の0.5%を維持していた。CPIがインフレ目標である+1~+3%を大幅に上回っているが、経済回復を考慮し、今後の追加利上げペースは緩やかになる可能性がある。

財政政策：景気刺激策を続けている。2022年度 (2021年10月~2022年9月) の一般政府の財政収支はGDP比▲6.1%の見通し (IMF、2022年4月時点)。公的債務は政府設定の上限であるGDP比70%を超えていないものの、同51.1% (2021年9月末時点) から2022年6月末には同61.1%まで急増している。今後も、政府は、燃料価格などの物価への抑制策による支出や減税措置を続ける方針。

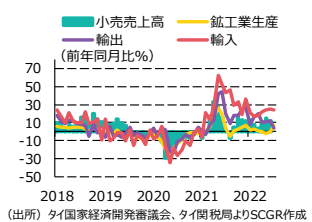
為替 (対ドル)：下落傾向にある。7月下旬以降、観光業の回復などを好感し上昇に転じたものの、8月中旬以降、米国の雇用統計が力強い内容となりドル買いパーツ売りが進み、その後も米国ジャクソンホール会議でのFRBによるタカ派の発言などでパーツの下落が続いた。先行きは、中国経済の失速、米国との金利差などがパーツへの下押し圧力となるものの、観光業復興への期待が続くため緩やかな下落にとどまるとみられる。

株価：上昇している。3月以降、ウクライナ情勢や米国の金融引き締めに対する懸念が高まり下落していたが、7月中旬以降、観光業の回復などを好感し上昇している。ただし、9月初旬、輸出の鈍化などから下落する場面はあった。今後も、観光業復興への期待から上昇が続くとみられる。

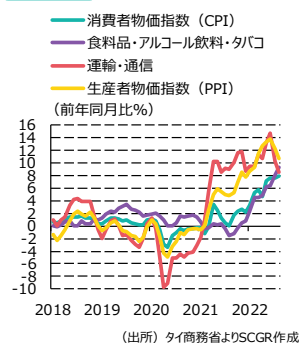
タイ経済成長率見通し



主要経済指標



物価



為替・株価

